薪ストーブ
快適に使用するための8つのポイント

ユーザーのマナー！適時・適量・適温

間違った使用は家が暖まらない
そして、薪を知らないうちに捨てている

ポイント1 薪を小さく割り乾燥させる

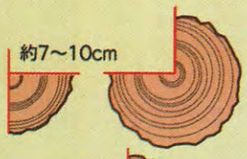
【薪の乾燥】

含水率 20％以下の薪を使用してください。屋外から持込んですぐの薪は冷えて燃えにくいため、使う分は事前に室内に準備しましょう。

【理想的な薪のサイズ】

- ■長さは30～40cm
- ■標準サイズ薪・中割サイズ薪・焚付薪の３種類

標準サイズ薪
扇形で一辺の長さが
7～10cm程度



中割サイズ薪
扇形で一辺の長さが
3～5cm程度

焚付薪
小口1.5 ～2cm角程度で、
長さは薪の半分程度のものが望ましい。

※太さは、直径に相当する大きさであり、あくまでも目安になります。

ポイント2 すばやく適温まであげる

着火してストーブトップ温度計で、適温[※1]になるまでに鋳物製ストーブであれば30～45分を目安に温度を上げるようにしましょう。
低温の状態が長時間続くと煙突を詰まらせるクレオソートが多く発生します。
同時に強い臭いも多く発生します。焚き始めからスムーズに立ち上げて臭いや煤の発生を最小限にするように努めましょう。

【着火剤を使用しましょう】

すばやく温度を上げるには着火剤が有効です。木質系・パラフィン系を推奨。着火剤を使用することでスムーズな上昇気流と熱量を得られるため初期の煙を低減できます。
紙、新聞紙は煙突から舞いやすく、松ぼっくりや杉の葉は煙が多く出やすいので使用を控えましょう。

※1　適温はストーブ機種により異なります。取扱説明書をご覧ください。

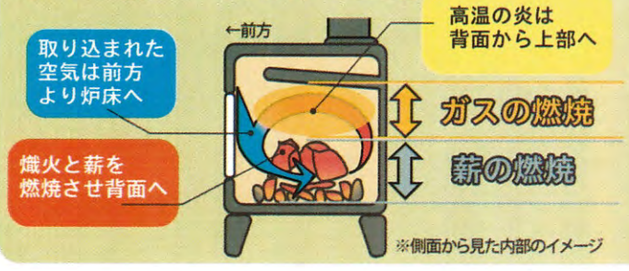
ポイント3 適時、適量の薪を追加する

薪ストーブの炉内に薪を詰め込んではいけません。
薪から出るガスが燃える空間が必要です。

※薪の量はストーブ機種により異なります。取扱説明書をご覧ください。

薪の量は、炉内の高さ半分が目安。ただし、
着火時の焚付薪の量は、高さ半分以上あっても構いません。

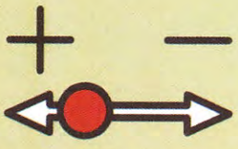
【炉内上部はガス燃焼する空間】



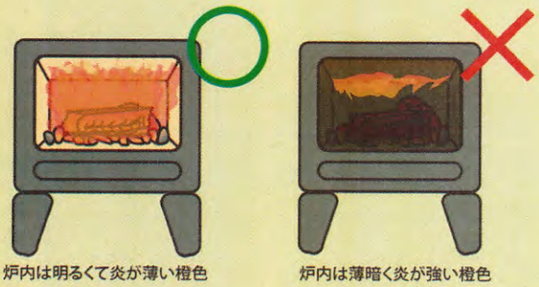
※側面から見た内部のイメージ

ポイント4 適量の空気を入れる

しっかりと空気を取り込まなければ燻してしまい、強い臭いと煙の原因になります。



薪を追加する際は、まず[※2]給気レバーを全開にし、ドアを開け薪を投入。その後ドアを閉めたら、しっかり空気を送り込みます。
給気調節する際は、炉内が燻らないようにしましょう！



炉内は明るくて炎が薄い橙色
適量の空気での燃焼

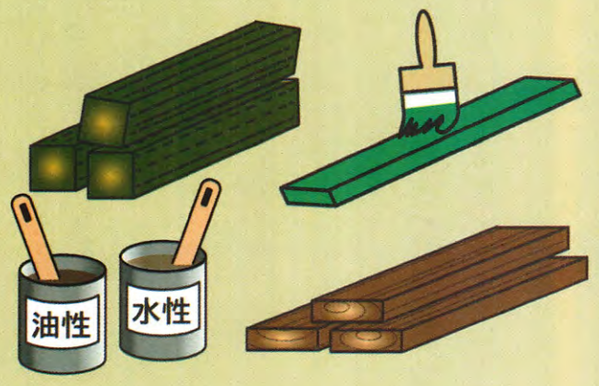
炉内は薄暗く炎が強い橙色
空気の絞り過ぎで燻っている状態

※2　ドアを開ける前に給気レバーを全開にする事で、逆流の軽減につながります。

つづきはウラ面へ

ポイント5 添加物の含まれた木材の使用禁止

油性水性に関係なく、ペンキ塗料・染色塗料や防蟻・防腐の薬品、石油由来の接着剤を含む木材などを燃焼することにより強い臭いや黒煙を出す事がありますので使用してはいけません。



ポイント6 木質以外の家庭ごみ等の焼却禁止

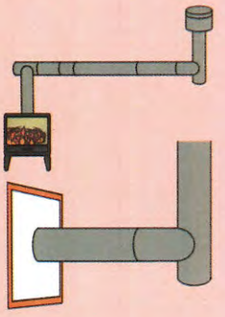
薪ストーブは焼却炉ではありません。プラスチックなどご家庭内で出されるゴミは、条例に従って分別し処分しましょう。不快な臭いや黒煙の原因になる為、燃やすのはやめましょう。また、薪ストーブを損傷させる恐れもあります。

お近くの日本暖炉ストーブ協会会員へご相談ください！

ポイント7 プロに煙突の設計をしてもらう

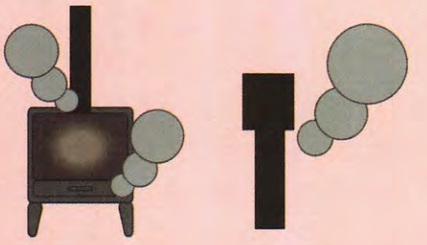
煙突の長さはストーブの機種にもよりますが、短い煙突は適切な燃焼が行われない為、強い臭いの発生につながります。また、横引き(水平方向)の長い煙突は上昇気流が起こりにくく、煙がスムーズに排出されず燃焼が弱くなり、強い臭いの原因となります。

屋外にシングル煙突を使用してはいけません。 温度低下によって煙突内部にクレオソートが付着しやすくなります。煙突内部の煙がスムーズに排出されず、燃焼が悪くなり、本体で発生した強い臭いは屋外に排出されます。また、煤や木酢液なども発生し無理な燃焼を続けると火災の原因にもなります。



ポイント8 煙突・本体の定期点検を行う

煙突掃除は最低でも1年に1度行いましょう。本体も点検し、損傷や燃焼の状況を把握する事が重要です。頻繁にガラスが煤けたり、煙突や本体に光沢のあるクレオソートが多く付着したりする場合は、低温燃焼の傾向があるなど焚き方に問題がある可能性が高いです。ポイント1から7を確認しましょう。



薪ストーブの取り扱い手順の一例として燃焼状況を視覚化した実験動画をご参照ください。

日本暖炉ストーブ協会HP

埼玉の薪ストーブ屋さん
Wood Base
日本暖炉ストーブ協会正会員
株式会社　Wood Base
〒367-0115 埼玉県児玉郡美里町猪俣2262-1
TEL0495-71-5165　FAX0495-71-4207
✉ info-1.otoiawase@woodbase.shop

日本暖炉ストーブ協会
Japan Fireplace & Stove Association

2024年　制作：煙プロジェクトチーム